

『電波利権』

現在の「電波」を取り巻く状況を、歴史を紐解きながら解説
93%を携帯電話ユーザーが支払う電波利用料、放送の負担はわずか1%

森山 和道(サイエンスライター)



池田 信夫 著
ISBN : 4-10-610150-5
定価 : 本体 680 円 + 税
新潮社

携帯電話の登場に伴って電波の価値が高騰。同時に、テレビ局による電波の浪費が問題となっている。電波の世界は、いわば都心の真ん中に広がった農地が、政府によって保護される一方で、すぐ横に超高層ビルが建ち並んでいるも同然の状態だ。歪みの象徴が電波利用料だ。93%を携帯電話ユーザーが支払う一方、放送の負担は1%あまりに過ぎない。電波を高度利用している側が高額の負担を強いられる一方で、放送は旧態依然のまま。しかもこの電波使用料は地上デジタル放送のためのアナアナ変換に用いられる。なぜこんな状況になったのか？

本書は、放送開始から田中角栄によるメディア支配の構造、ハイビジョンの失敗

の理由、NHK にいた故・島桂次の功罪、「安定と停滞」の海老沢長期政権成立の理由、そして現在進行形の無線インターネット革命など、現在の「電波」を取り巻く状況を、歴史を紐解きながら端的に伝える。

若い読者は知らないことも多いだろうし、同時代を生きた人々にとっては、改めて教訓を学ぶことができる一冊だ。

著者は、NHK は民営化し受信料を視聴料に変えるという。これには異論も多そうだが、いずれにせよ最後の「護送船団」である放送業界はやがて解体されることになるだろう。IP 放送が本格的に始まる時代に、どんなサービスが可能か。真剣に考えるべき時期が来ている。

『ソニー病』

瀕死状態のソニーが生き返るための処方箋
“ソニータイマー”は撲滅できるのか

山川 健(ジャーナリスト)

日本初のトランジスタラジオ、独自技術のトリニオンカラーテレビ、新しいリスニングスタイルを広めたウォークマン、元祖ベンチャーとして、従来にない商品を市場投入してヒットさせた日本が世界に誇る企業、ソニー。今やかつての勢いはなく、苦しんでいる。筆者らはその状態を「ソニー病」と呼び、さまざまな症状を分析し、処方箋を記した。

本書では、現状を「ブランド力のみ高く、ヒット作を出せずにもがいている瀕死のソニー」といい、最近の経営戦略を手厳しく批判。トップ人事への疑問も投げ掛けている。しかし行間からはソニーへの愛情が伝わってくる。ソニーが好きだからこそ、復活を熱望しているのだ。

ネットで語られる“ソニータイマー”。保証期間が過ぎると壊れることを意味する。デザインやサイズなどコンセプトが先にあるため、パーツに技術的な無理が生じて故障が起きる。筆者は、ソニー病克服のため、品質管理の徹底によるタイマー撲滅作戦が急務だ、と指摘する。

本書には、アスキー創業者の西和彦氏も寄稿。金融事業をエンターテインメントとして位置付けたネットカジノという興味深い新ビジネスの提案をしている。

本書発行後の1月26日、ソニーは3月期の連結最終損益予想を、100億円の赤字から700億円の黒字に上方修正した。液晶テレビが好調だったことが要因。病気は徐々に回復しているのかもしれない。



城島 明彦 著
ISBN : 4-89691-987-4
定価 : 本体 952 円 + 税
洋泉社

本でしか得られない知識がある。
今月の、お勧め、お役立ち、元気になる書籍。

『ヤフー!・グーグルSEO対策テクニック』

経験から語られる実践的なSEO対策のノウハウ集
裏技的でなかなか聞けないテクニックも多数

大澤 文孝 (テクニカルライター/プログラマー)



鈴木 将司 著
ISBN : 4-7981-1028-0
定価 : 本体 1,600 円 + 税
翔泳社

SEO対策本は数多くあるが、本書の価値は、著者が実際に試して効果があったものをノウハウとして集めている点にある。たとえば<META>タグにキーワードを書くというのはSEO対策の基本だ。しかし実際に「どんなキーワード」を書けばよいのかということまで踏み込んだものは少ない。そんななか、本書は、より具体的に「どのようなキーワードをどの程度の文字数で書くべきなのか」といったところまで踏み込んでいる。

また本書では、ページの改良によるSEO対策だけでなく、SEO対策に不可欠な、検索エンジンへの登録申請の流れもきちんと説明されており、SEOそのものを知らない初心者でも読み進められる。

本書で解説されている内容には、裏技的でなかなか聞けないテクニックも多数含まれている。しかし残念なのは、それらのテクニックが、「汎用的に効く策なのか」「今だけ有効な策なのか」、それとも「よく分からないけれども効いている眉唾的な策なのか」といった区分がなく、雑多に扱われてしまっているという点だ。

眉唾的であれ、効けばSEO対策として有効なので、そういったものも迷わず掲載しているという点では評価できる。

しかし、これらの整理がもう少しつければ、読み手がどの策を優先的に採用するかを決める手だてができ、より効率的なSEO対策ができるだろうと思った次第である。

『ウェブ進化論』

いま、ネットの「あちら側」で何が起きているのか
ブログ、ロングテール、Web 2.0 といった新たな潮流の本質とは何か

斉藤 彰男 (編集者、SE)

最近のインターネット関連ニュースを見ていると、新しいサービスに関する記事が急速に増えているのに気付く。その最たる例がグーグルだ。Google Mapsはもとより、昨年の秋以降は、Personalized HomeやGoogle Baseなど新たなサービスを矢継ぎ早に投入するといった勢いだ。「何かが変わろうとしている」と感じている読者も多いことだろう。

このようなネット社会の変化をもたらす構造として、著者の梅田氏はネットの「あちら側」に注目する。「ネットの『あちら側』とは、インターネット空間に浮かぶ情報発電所ともいうべきバーチャルな世界である」と語り、グーグル、アマゾン、ヤフー、eベイといった時代の最先端を走る企業

は、いまネットの「あちら側」に付加価値創造のシステムを作りつつあると指摘する。

ネットサーフィンによって必要な情報を集めるための「窓」であったインターネットが、いま高度なサービスを提供する「コンピュータ」として機能する新たなパラダイムにシフトしつつあるのだ。

本書では、この「インターネット」の変化に加えて、下落するハード価格やソフトウェアの無料化などによってもたらされる「チープ革命」、またリナックスに代表される「オープンソース」の普及を三大潮流と位置づけ、それによって何が起ころうとしているのかを読み解いている。ネット社会の未来図はどう描かれるのかを知るには、最適の一書である。



梅田 望夫 著
ISBN : 4-480-06285-8
定価 : 本体 740 円 + 税
筑摩書房



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp